

飯田市歴史研究所第5期中期計画(案)へのパブリックコメント及び協議会等からいただいたご意見と回答

	箇所	意見内容	回答	対応
1	P2 II重点目標 II-1 地域アーカイヴズ事業の拠点化	歴史史料の保存と公開について 調査・整理・保存が進められていくなかで、公開も課題となりますが保存している資料のリスト、写真、絵図、地図などどのように公開するか具体化し実施してほしい。すべてでなくてもよく代表的な資料などを何点か解説・撮影・解説などつけ、ネットに載せてほしい。ホームページから入っていけるようにして…	○歴史史料の保存と公開について 現在、歴史研究所で調査を行った史料群の目録(リスト)や所蔵史料は、非公開分を除き、所内で閲覧できますが、市民や研究者がより手軽に利用できるよう取り組むことはおおきな課題です。まずは、ホームページなどでの目録の公開が重要と認識しています。	参考
2	P2 II重点目標 II-1 地域アーカイヴズ事業の拠点化	美博・図書館との連携 このことは以前から、かなり言われているが進んでいるように見えない。3つの施設の史料保存がきちんと分担されていない。そして公開も進んでいない。ここを早急に改善し、市全体の方向付けをしてもらいたい。これは3施設だけでなく、生涯学習・スポーツ課においてしっかりまとめて行くように担当をはっきりさせることと、年ごとの連携の具体化を進め、実績がわかるようにしてもらいたい。	○美博・図書館との連携 来年度、美術博物館のトピック展示の1回を歴史研究所が担当することになっています。また、美術博物館と歴史研究所の共催で古文書講座を実施することも計画しています。これらを通して連携を深めるとともに、今後の史料保存にかかわる役割分担も明確にしていきたいと考えています。 また、いいだ未来デザイン基本目標4「豊かな『学びの土壌』を活かした『学習と交流』を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む」の目標達成に向け連携を深めたいと考えています。	参考
3	P2 II重点目標 II-1 地域アーカイヴズ事業の拠点化	文書館について 文書館については全県の中でも遅れています。なんとか考え進めるように働きかけたいものです。教委の中ではどのように考えているのか、話し合って前へ進めていますか。	○文書館について 公文書の保存・公開は大きな課題です。 教育委員会だけではなく、市の方針としてどのように扱うか検討が必要と考えています。	参考
4	P4 II重点目標 II-4 地域史研究・地域保全遺産での交流	災害時史料等レスキュー 長野県は他県と比べ遅れています。飯伊では南信州広域連合、伊那谷研究団体協議会などと声を掛け合い具体化を始めてほしいと思います。	大規模災害が頻発する中、地域史料・地域遺産についても、それへの備えを具体的に検討する必要があります。飯田・下伊那の諸機関・団体との連携を大事にしながら、これに取り組みたいと考えています。	参考
5	P4 II重点目標 II-5 恒久施設への移転	歴史研究所の施設を何とか早く決定したいものです。文化会館などの施設の動きの中で一緒に考えてもらうとともに、美博・図書館に近づけていきたいものです。県の消費生活センター、上郷別府の施設などを活用できるように考えてみたい。	移転先を検討し、できるだけ早く恒久的な施設に移転できるよう取り組んでいます。	参考
6	P6 III基本的事業活動 III-2 教育・普及活動	1 飯田アカデミアの回数を2回くらいに減らす。 2 地域史講座、3 出前講座を増加させる。 5 古文書講座は美博と分担しなおす。 初期学習…美博、研究等と絡め深める…歴史	現状、飯田アカデミア、地域史講座、出前講座などは好評を得ていますが、より内容の濃いものとなるよう改善を重ねていきたいと思えます。 古文書講座については、上述のとおり、令和3年度から美術博物館と歴史研究所の共催で実施する予定です。	参考

	箇所	意見内容	回答	対応
7	P7 Ⅲ基本的事業活動 Ⅲ-4 地域史編さん・出版事業	<p>今までの実状を見ていると、ここに書かれているように多くの出版を考えたとしてもきちんとできた例は少ない。はっきりとやるものを年度ごとに表へ出し、研究所内の分担をきちんとし、期間内に出版すること。また、歴研の外にいる研究者（職員以外）が中心になると必ず予定どおりにできない。内部で中心に進めていくこと。</p> <p>年報の8月発行はおかしい。年度の末までにきらんでできるようにすべき。原稿の遅れもそこにある。</p>	<p>書籍などの編さん・出版にあたっては、①顧問研究員と若手研究員を中心とした編集チームを組織すること、②出版年を定めて数年前から刊行計画を立案し、余裕をもって編集作業に取り組むことにより、着実に事業を進めたいと考えています。</p> <p>なお、年報は1年間の成果を翌年度前半に公表できるよう毎年編集作業に取り組んでいます。</p>	参考
8	P7 Ⅳ歴史研究所の体制整備 Ⅳ-1 組織・運営	<p>所長、研究員、調査研究員の選任について教委がしっかり考えて主導して決めること。（採用すること）</p> <p>任期付研究員は減少させること。3名→2名。5年より早くやめる研究員については手当を返還させる。5年以上というようにしていくこと。</p> <p>調査研究員を増加させ地域との連携を深める（地元の調査研究員を増やす）。</p> <p>研究所の外にいる調査研究員には毎年必ず研究報告をさせ、歴研へ必ず足を運ばせる。</p> <p>顧問研究員など地元との関わりの研究を必ずさせ、しない者には辞めてもらう。</p>	<p>職員配置については、飯田市の社会教育機関全体の専門職のバランスが取れるように考えて採用を考えていきます。</p> <p>地域との連携を深めるためには、常勤の研究員と地元の研究者とのつながりや連携が必要と考えています。</p> <p>関係する研究員からは研究計画・研究報告がされ、地域史講座等で市民への還元をしています。</p>	参考
9	P7 Ⅳ歴史研究所の体制整備 Ⅳ-2 連携	<p>連携が言葉だけにしないようにすること。講座など美博・歴研・図書館・公民館と連携し、しぼってやること。各施設で講座を増加させず、統一したテーマで手分けするなど考えること。</p>	<p>上述のとおり、来年度、美術博物館とはトピック展示や古文書講座を共同で実施します。また、図書館や公民館で開催される講座の講師を、歴史研究所の研究員が務めることもあります。これらを足がかりに、市民の学びの場における連携をさらに深めたいと考えています。</p>	参考
10	P1 Ⅰ基本方針 1について	<p>単位地域（※）の歴史や文化とありますが、災害や思想、産業などの歴史は、単位地域だけにとどまらない広範囲になるため、単位地域を限定しない。「単位地域」を削除したらどうでしょうか</p>	<p>歴史研究所が「単位地域」という考え方を重視するのは、こうした現在の自治区域（概ね小学校区）が、歴史的にみても、人びとの暮らしを成り立たせるうえで不可欠なまとまりだったと理解しているためです。ご指摘のとおり、災害や思想、産業などの諸問題は、単位地域の枠組みにおさまらない性格をもちますが、そうした事がらについても、個々の単位地域を基盤とした人びとの生活に、どのような影響を与えたか、という視点を大事にしたいと考えています。</p>	参考

	箇所	意見内容	回答	対応
11	P4 II重点目標 II-5 恒久施設への移転について	<p>「あるべき方向性を具体的に検討します」とありますが、「あるべき方向性は具体的に検討しました。今期間において恒久的施設へ移転を行います。」と明記すべきです。2017年9月に旧鼎東保育園に仮移転し既に3年以上経過しました。その間多くの問題が発生し、貴所に置かれましては、①②③で記述されていますように、問題点、改善の方向性は的確に明記されています。あるべき方向性はすでに検討され尽くしていますので、今期間に恒久的施設へ移転する。③で記述されていますが、美術博物館、中央図書館の周辺、たとえば追手町小学校や消費生活センターへの移転を具体化し移転すると記述するのはいかがでしょうか。</p> <p>【会員の声】</p> <p>○昨年雨の日に歴史研究所へ史料閲覧に行きました。廊下に雨漏り用のバケツが置いてありました。史料保管室の湿気や雨漏りが心配です。以前、上郷の元村長・衆議院議員北原阿智之助家の蔵の史料を貴所に寄贈したと伺ってまずし、天龍社の膨大な資料もあるようです。こうした資料こそ地域の人が生きてきた遺産だと思います。役場文書など行政資料を包括した文書館的建造物へ移すべきです。</p> <p>○利用するため歴史研究所へ入るとそこは事務室です。閲覧室も書架の間が狭く、冬はとっても寒い。学生や地域住民が史料調査や学習をするに適した環境の整備を図っていただきたい。そのためにも早期の恒久的施設への移転の記述を望みます。</p>	<p>ご指摘のとおり、現在地への仮移転から3年以上が経ち、社会教育機関あるいは研究機関、史料保存機関としての問題点や課題は明確になってきています。</p> <p>それを踏まえ、できるだけ早く恒久的な施設へ移転できるよう検討に取り組んでいます。</p>	参考
12	4P III基本的事業活動 III-1 調査研究 III-1-1 史料調査について	<p>史料調査ですが、産業史料も加えていただきたい。地域の人々は、様々な産業に関わり生活してきました。水引（『飯田・上飯田の歴史』の下巻には記述なし）、養蚕、果樹、精密産業、農村社会（農会・農業会・農協）などの史料は合併などにより失われつつあります。又、過疎化の激しい山村や街中の廃屋状況も調査の対象にしていただきたいと思います。2020年度から利用を開始した「押洞書庫」の地籍は、貴所もご存知のように防災ハザードマップに「土砂災害警戒区域（土石流）」と指定されています。地球温暖化による異常気象が多発する現状を考え、『II-5 恒久的施設への移転』で記述されていますように、「押洞書庫」も恒久的施設への移転への移転と記述していただきたい。</p>	<p>ご指摘の点は重要です。「個人の家や区、企業・団体、学校など地域に残される古文書・古記録などの文献史料調査」に、産業史料も含まれています。また、「歴史的建造物・歴史的景観の調査」では、廃屋や空き家、またはそこに残された古文書なども対象とします。</p> <p>さらに、ご指摘のとおり、押洞書庫は立地環境の面でも問題があります。したがって、「また同書庫の環境改善（草刈りや内部の掃除・温湿度管理、防災・防犯など）と計画的な運用が課題となります。さらに、「土砂災害警戒区域（土石流）」にあり、歴史研究所の恒久的施設への移転とあわせて、書庫のあり方も検討する必要があります。」と修正（下線部を加筆）します。</p>	参考 (一部修正)
13	P8 IV歴史研究所の体制整備 IV-1 組織・運営 1組織について	<p>任期付若手研究員制度の見直しが必要である条文箇所を記述し、問題点と改善方法を記述して下さい。「現状の問題点を点検」とありますが、任期付若手研究員制度以外の問題点があれば、今まで行われた点検及び検討を記述し、今後改善すべき点を具体的に記述できないでしょうか。</p>	<p>歴史研究所の研究員は任期付職員として採用していますが、交代時期には前任者が築いた地域や市民とのつながり、また蓄積された調査・研究成果が十分に引き継がれないなどの課題があります。</p> <p>今後、前述の課題解決に向けた方法も検討し、さらに飯田市の社会教育機関全体の専門職のバランスも考慮しながら体制を考えていきます。</p>	参考

	箇所	意見内容	回答	対応
14	P8 IV歴史研究所の体制整備 IV-2 連携 1飯田市の社会教育機関等 ①について	<p>市民がより利用しやすい環境の整備とありますが、現在図書館でも行っている“フリーワード”検索機能の設定を行い、市民が自宅から検索可能なシステムの構築を図り、全所蔵資料（非公開資料は含まず）の一点毎の検索ができること。また、閲覧室でも利用者が所蔵資料の検索ができるようパソコンを設置していただきたいと思ひます。</p> <p>破損により閲覧できない史料は、紙焼きし閲覧室に配架していただきたいと思ひます。図書館では、閲覧禁止とせず市民の利便性を図っています。</p>	<p>ご指摘いただいた史料目録の公開の促進は重要な課題です。歴史研究所が調査した史料群の目録は、現在、所内で閲覧できますが、市民や研究者がより手軽に検索できるよう、まずはホームページなどでの公開が重要と考えています。そのうえで、“フリーワード”検索機能などについても検討したいと思ひます。</p> <p>なお、歴史研究所では、原則として、所蔵史料はすべて公開しています。</p>	参考
15	その他	<p>文書表現で、些細な事で恐縮ですが、下記事項もご検討ください。</p> <p>① はじめにの記述の中の「かけがえのない歴史」「かけがえのない地域遺産」と表現されています。I基本方針の「かけがえのない宝物」II-2地域遺産の再発見の「かけがえのない地域遺産」の2ヶ所の「かけがえのない」は、重複されていますので削除してはどうでしょうか。各項目の中の文書が簡素化されると思ひます。</p> <p>② 「等」を「など」に書き換えると柔らかい表現となりますがいかがでしょうか。</p> <p>③ I基本方針の3で「歴史的に密接・不可分な関係にあった下伊那」を「関係にある下伊那」と修正する。今後も下伊那の全域を対象としますとの記述があるため「ある」と修正するのはどうでしょうか</p>	<p>① I基本方針の「かけがえのない宝物」を「宝物」（「かけがえのない」を削除）に、II-2地域遺産の再発見の「かけがえのない地域遺産」を「地域遺産」（「かけがえのない」を削除）に修正します。</p> <p>② 条例の引用部分を除き、「等」は「など」に修正します。</p> <p>③ I基本方針の3の「歴史的に密接・不可分な関係にあった下伊那」を、「歴史的に密接・不可分な関係にある」に修正します。</p>	修正
16	その他	<p>歴史研究所の広報活動ですが、飯田市の広報紙や地元新聞に、身近な歴史物件や珍しい史料、埋もれている人物などを紹介できれば、多くの市民が歴史研究所の活動を知る機会となります。また、当会にも『歴史ニュース』をお送り下さりありがたく思っています。この『ニュース』で貴所の活動や様々な講座の開催を知ることができますし、歴史の真実、調べることの楽しさを教わりました。多くの市民が貴所の活動を知り身近な歴史を知ること、地域の歴史に興味を持ち、今後の研究者を育てることもつながります。『歴史ニュース』を組合回覧することは可能でしょうか。予算や職員の事務手数もありますがご検討いただけたらと思ひます。</p> <p>最後になりますが、貴所の日々の活動に敬意を表すとともに感謝申し上げます。当会の活動を行うにあたり「歴史研究所」は拠所であり、飯田市に「歴史研究所がある」ことは市民の誇りです。</p>	<p>『歴史ニュース』は歴史研究所の活動を広く伝える有効な手段となっています。さらに多くの市民に見ていただくための方法を含め検討したいと考えています。また、市の広報や新聞などを通じた広報についても、積極的に取り組みます。</p>	参考

	箇所	意見内容	回答	対応
17	P1～P4 はじめに I 基本方針 II 重点目標の全般について	<p>研究所の使命として基本目標や重点目標に文言として書込んで欲しい事項です。(○)</p> <p>○地域の課題、願いや思いに応える研究活動を行い、研究の成果が地域づくり・人づくりにつながるものであるよう努めます。</p> <p>○地域の歴史と文化をはじめ、暮らしている地域を知り、ふるさとを愛する心を育みます。</p> <p>○市民の歴史への興味関心を醸成するとともに、この地の生活者であり、これからもこの地に生きて研究を続けていく歴史研究者を育て支援します。</p> <p>○自分の生活する地域の歴史を語るができる人材の育成に努めます。</p>	<p>○ご指摘の点は重要です。</p> <p>「はじめに」の「こうした中で、飯田・下伊那の各地域、それぞれの地区の景観や自然の中に、人びとの日々の営みの痕跡が積層して形づくられる歴史や文化の遺産（地域遺産）は、地域づくり、まちづくりの核になる大きな可能性を秘めています。これらかけがえのない地域遺産を破滅や滅失から防ぎ、収集・保存して未来へと継承し、その内容を調査・研究して成果を多様な形で地域市民へと還元しようと試みる飯田市歴史研究所の存在意義は、ますます重要になっています。」という記述、あるいは、II「重点目標」の2「地域遺産の再発見」の「飯田・下伊那には、豊かな自然環境に生まれた多様な歴史や文化に彩られた地域遺産が現在も膨大に残存しています。これらかけがえのない地域遺産の意味を再発見し、地域の宝物として大切に継承し、学び活用する条件を整備し、地域市民の地域への愛着を育み、地域の魅力づくりに結びつける必要があります。」という記述に、ご指摘に関わる歴史研究所の考えを記しています。</p> <p>○同上。</p> <p>○ご指摘の点は重要です。</p> <p>II「重点目標」の3「地域市民との連携」の「これまで重視してきた地域市民との連携に、引き続き取り組みます。特に地域市民自らによる史料調査や地域の学習・研究活動との協力・協働を重視します。」という記述、さらにはその3項の「市民研究員や研究助成制度のさらなる充実を目指します。」という記述に、ご指摘に関わる歴史研究所の考えを記しています。また、地域で生活をしながら、歴史研究に取り組む人材の育成を目的とした市民研究員制度をとりわけ重視し、III「基本的事業活動」の3「研究者養成と地域連携」でも、市民研究員制度の充実化を目標に掲げています。</p> <p>○同上。</p>	参考
18	P8 IV 歴史研究所の体制整備 IV-1 組織・運営	<p>○任期・特任研究員は、少なくとも古代・中世・近世・近現代のバランスのある構成とし、時代分野別の重点取り組みをあきらかにして臨むとともに、地域の歴史を学ぶ人々の関心や地域の研究者の多様な課題に応える飯田下伊那史の研究拠点を目指します。</p>	<p>○研究員や特任研究員のバランスは重要な問題です。地域から新しく発見される史料の大半が近世～近現代のものであることなども考慮しながら、「歴史研究所の組織体制について、現状の問題点を点検」（IV「歴史研究所の体制整備」の1「組織・運営」の1項「組織」）し、体制の充実をはかりたいと考えています。</p> <p>また、I「基本方針」の4・5項、およびII「重点目標」の3「地域市民との連携」の4・5項、さらにはIV「歴史研究所の体制整備」の2「連携」の3～5項でも記しているように、引き続き地域の歴史を研究・学習される方々や研究団体との関係を重視し、飯田・下伊那における地域史研究の拠点となることを目指します。</p>	参考

	箇所	意見内容	回答	対応
19	P8 IV歴史研究所の体制整備 IV-2 連携 1 飯田市の社会教育機関等 ②	○美術博物館の学芸員・専門研究員との専門分野を超えた連携や協働により伊那谷の自然と文化の多様性と奥深さを横断的に明らかにしていきます。 ※特に美博人文分野と歴研の専門研究者は各々自立的社会教育機関の所属であっても「伊那谷の自然と文化」の専門的な調査研究を深めるため、有効な連携協働がなされることを市民は期待しています。	○ご指摘の点は重要です。「市街地中心部に位置する中央図書館・美術博物館とは、 <u>研究やその成果の公表・諸企画</u> 、また地域市民の地域史学習の場として、相互に深く連携・協働することが重要です。」に修正します。	修正
20	P3 II重点目標 II-1 地域アーカイブズ事業の拠点化 文書館機能 1行～5行目まで	○「文書館機能を一時的に代行する」機関から、5期中期計画では「一時的代行」ではない文書館に移行したい。分散保管の可否・閲覧可能不可の基準・閲覧方法等々、「入れ物＝館」だけではない、文書館の具体の検討にもとりかかって欲しい。（この項は希望か？）	○公文書の保存・公開の体制整備は喫緊の課題です。教育委員会だけではなく、市の方針としてどのように扱うか検討が必要と考えています。	参考
21	P4 II重点目標 II-5 恒久施設への移転	○歴史研究所と公文書館、平和祈念館資料室、歴史教育資料や歴史教材センターなどの多機能の「歴史館」を将来構想として強く打ち出したい。美術博物館や図書館のある飯田城二の丸界隈の再開発による<センター>をデザインしたい。文化のないところに人は集まらない。 現行の歴史研究所の「恒久施設への移転」という発想ではなく、美術博物館や図書館等をもパッケージにした総合的なデザインが必要と考えます。	○歴史研究所の将来的なあり方、美術博物館や図書館など社会教育機関などとの関係のあり方などについては、歴史研究所協議会など様々な場で、市民のみなさまの意見をうかがいながら検討していきたいと考えています。	参考